

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

令和元年度病虫害発生予報第3号

令和元年5月30日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	並 少 少 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— <b>やや早</b> — やや遅 — —	やや少 やや少 <b>多</b> 少 並 並
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	<b>やや早</b> <b>やや早</b> <b>やや早</b> 並	並 <b>やや多</b> 並 並
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 並 —	並 やや少 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— やや遅 並	やや少 並 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	— —	やや少 並
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	並 並 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	やや遅 並	やや少 並

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

#### (2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は5頭であり、平年(61.4頭)より少なかった。

#### (3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は2頭であり、平年(17.8頭)より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

#### (4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月15日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 2. 果 樹

### (モ モ)

#### (1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月7日の巡回調査における花腐れの発生圃場率は0%（平年12.9%）で、5月23、24日の巡回調査においても芽枯れ、枝病斑の発生を認めなかったことから、幼果への感染量は平年よりやや少ないと考えられる。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

## (2) 黒星病

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや早めに推移している。

イ. 5月23、24日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並であった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平年より少なかったため、幼果への感染は平年より少ないと考えられる。

## (3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 5月23、24日の巡回調査によると、発病葉の発生圃場率は50.0%で平年（11.4%）より高く、発病果も散見されている。

イ. 5月23日の季節予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生圃場数」は多い（岡山県病害虫防除所調査）。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察注意報第1号（4月23日発表）、第3号（5月28日発表）参照。

## (4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年（14.7頭）より少なかった。

イ. 5月23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（7.9%）より低かった。

ウ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

## (5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は6頭で、平年並（3.3頭）であった。

イ. 5月23日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は7.1%で平年（7.8%）並であった。

ウ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は17頭で、平年(26.0頭)並であった。フェロモントラップでの誘殺数は122頭で、平年(283.4頭)より少なかった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早めに推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月23日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早めに推移している。

イ. 5月の日照時間は平年よりやや多く、本病の発生をやや助長する条件となる。

ウ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、降水量が少ない場合には発病を助長する条件となる。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早く推移している。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査によると、被害発生圃場率は9.1%で、平年(9.3%)並であった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、23日の巡回調査では発生を認めず、平年（5.6%）並であった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21、23日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年（48.9%）よりやや低かった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、23日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年（20.6%）よりやや高かった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期（雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬）と病勢進展時期（7月下旬～8月上旬）に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21、23日の巡回調査では発生を認めず、平年（33.3%）より低かった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、23日の巡回調査では発生を認めず、平年（9.8%）よりやや低かった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並  
予報の根拠

ア. 5月21、23日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21、23日の巡回調査では発生を認めず、平年(12.9%)より低かった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は40頭で、平年(42.2頭)並であった。

イ. 5月21日の巡回調査では発生を認めず、平年(37.8%)よりやや低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並  
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は334頭で、平年(630.0頭)より少なかった。

イ. 5月21、23日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量はやや多かった。モザイク病は発生を認めず、発生圃場率は平年(キュウリ:5.8%、トマト:0%)並であった。

ウ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、降水量が少ない場合には本虫の発生をやや助長する条件となる。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件となる。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(9.4%)よりやや低

かった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期	並	発生量	並
------	---	-----	---

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（1.5%）よりやや低かった。

イ. 5月23日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、降水量が少ない場合には本虫の発生をやや助長する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

